

京都市立桃陽病院の 「これからをつくる」取り組みにご協力ください

○京都市立桃陽病院とは

京都市立桃陽病院は、1952年に小児結核保養所(旧桃陽学園)として開設されて以来、時代の変化に応じて対象を慢性疾患や心身症、発達障害などへと広げ、医療にとどまらず、療育的支援を含めた包括的なケアを提供してきたことが大きな特徴です。

1979年には療養学校(現・京都市立桃陽総合支援学校)との連携体制が整備され、医療と教育を一体的に受けられる環境が構築されました。敷地内に支援学校が隣接していることで、入院しながら学びを継続できる「医療と教育の両立」を実現しています。また、日々の密な情報共有を通じて子どもの些細な変化にも早期に気づき、迅速に対応する体制が整っており、安心できる環境(セキュアベース)で、心・体・学びのすべてをトータルに支えるこの仕組みは、全国的にも数少ない貴重な存在です。

○子どもたちの心と体を育む病院

さらに、自然豊かな環境の中で、ゆったりとした空間設計の病棟において共同生活を送りながら、子どもたちは安心して過ごすことができます。広々としたワンフロアの病棟では、子どもたちが鬼ごっこやかくれんぼで駆け回り、多目的ホールからは卓球やバドミントン、ボール遊びなどを楽しむ元気な声が聞こえてきます。また、ボードゲームやカードゲーム、けん玉やお手玉などの伝承遊びなど、アナログならではの温かな遊びを通じた交流を通して、体力づくりや五感の発達を促しています。加えて、工作などそれぞれの特技を活かした活動や、子どもたち自身が遊びを考える場面も大切にしており、発想の豊かさや主体性を育む関わりが行われています。こうした日常の中での成功体験の積み重ねが自信へとつながり、友達やスタッフとの関りを通じて、社会へ踏み出すための「人間関係を築く力」を楽しみながら身につけています。

心と体を育むのは、遊びだけではありません。ひな祭りや七夕、クリスマス会など四季を通じた行事や、それに合わせた彩り豊かな行事食や病院食の提供など、日常生活の中で四季を感じられる工夫も大切にされています。こうした経験や病院食を通じた食育の取り組みにより、「みんなで食べる楽しさ」や「食材への感謝」を知ること、入院前には苦手だった食べものを自ら口にできるようになるなど、食を通じた小さな成功体験も子どもたちの自信につながっています。

○京都市が桃陽病院の在り方を議論開始

近年、少子化や施設の老朽化等の背景に、桃陽病院の今後の在り方が議論されています。しかしながら、不登校児童の増加や発達特性を持つ子どもたちへの支援ニーズはむしろ高まっており、これまで以上に重要性を増していると考えられます。特に、入院を通じて生活リズムや情緒の安定を取り戻し、再登校や社会参加へとつながった事例は、数値だけでは評価しきれない大きな社会的価値を有しています。

このような医療と教育を一体的に提供する体制は、全国的にも限られており、代替が容易ではない重要な機能です。政令指定都市である京都市においてこのような機能を後退させることは、子ども施策の観点からも慎重な検討が求められます。

○子どもたちの最善の利益を守るために

桃陽病院は単なる医療機関ではなく、子どもたちが安心を取り戻し、再び社会へ踏み出すための重要な基盤です。今後の検討にあたっては、短期的な効率性や数値のみではなく、子どもたちの最善の利益および将来への影響を踏まえた総合的な視点から、その役割の維持・発展が検討されるべきであると考えています。

桃陽病院とは

京阪墨染駅から墨染通りを六地藏方向に歩いて約25分、（または、JR奈良線藤森駅を下車、東へ徒歩約20分）伏見桃山城の東側にあたる、峠を上った小高い丘に京都市桃陽病院があります。野鳥観察のできる自然に囲まれ、夏目漱石が滞在した別荘「桃陽園」があったことでも知られています。

病院には病弱児支援学校である京都市立桃陽総合支援学校が隣接し、治療と教育の一体化を目指した環境づくりに力を入れています。

ベッド数は100床（結核20床・一般80床）で、ぜん息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、高度肥満症や糖尿病、腎不全などの小児慢性疾患、心身症など様々な理由で学校に通えない小・中学校の子どもたちが、安心して病気を治しながら学校で学べる、全国でも珍しい公立の療育施設です。

病院の沿革

昭和27年3月	小学生を対象に小児結核保養所として開設（旧桃陽学園）病床数66床
昭和32年8月	中学生の入園開始
昭和43年8月	一部の病床をぜん息、腎炎、ネフローゼ疾患の病床に変更
昭和49年4月	呉竹養護学校桃陽分校設置
昭和54年4月	桃陽養護学校として独立
昭和57年10月	桃陽病院として改築 病床数100床
平成05年6月	外来診療開始

*京都市ホームページより

桃陽病院のこれからをつくる会 共同代表 池添素・渡邊賢治

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30-2 ラポール京都6F 京都医労連内京都社保協気付
tel:075-801-2526/fax:075-811-6170/mail:shahokokyoto@gmail.com